

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-127681

(43)Date of publication of application : 08.05.2002

(51)Int.Cl.

B43L 19/00

B43M 11/06

B65H 35/07

(21)Application number : 2000-328230

(71)Applicant : MITSUBISHI PENCIL CO LTD

(22)Date of filing : 27.10.2000

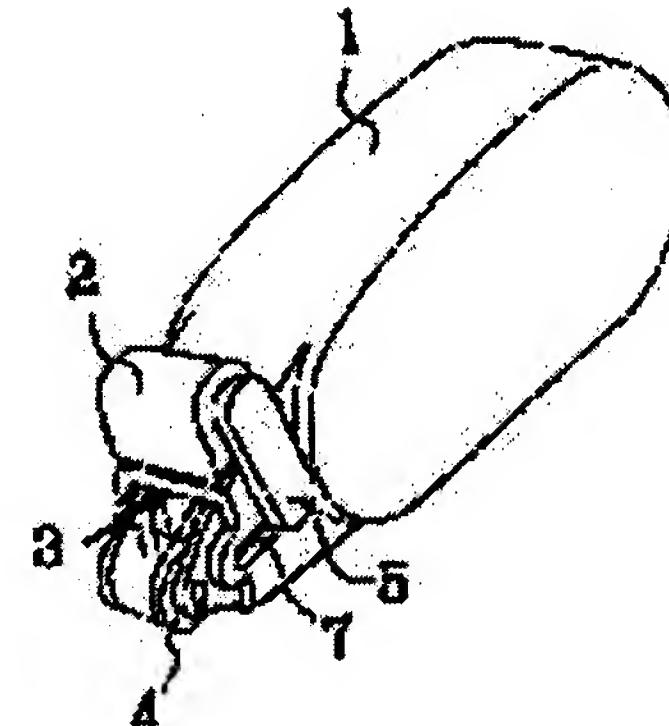
(72)Inventor : ISODA TAKASHI

(54) TRANSFERER OF CORRECTING TAPE, SELF-ADHESIVE TAPE OR THE LIKE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an operationally convenient transferer of a correcting tape, a self-adhesive tape or the like, in which a cap neither has a fear of being missing at a transferring work nor becomes a bar to the transferring work due to its separation from a transfer head.

SOLUTION: In the transferer of the correcting tape, the self-adhesive tape or the like, within a hollow case main body providing an opening part 3 at its front end of which a transfer mechanism consisting of the feed reel 11 of a transfer tape 10, the take-up reel 12 of a used tape, a transfer head 4 or the like are housed under the state that the transfer head 4 is made exposed through the front end opening part 3 of the case main body 1, backwards projecting arms 5 are integrally provided together with the cap 2 covering the transfer head 4 exposed through the front end opening part 3 of the case main body 1 and, rotary shaft parts 6 are provided at the rear end parts of the arms 5. Further, on the sides near the fore end of the case main body 1, bearing grooves 7 extending back and forth are provided so as to fit the rotary shaft parts 6 provided at the back end parts of the arms 5 slidably back and forth and rotatably to the bearing grooves 7.



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-127681

(P2002-127681A)

(43)公開日 平成14年5月8日(2002.5.8)

(51)Int.Cl.⁷

B 4 3 L 19/00

B 4 3 M 11/06

B 6 5 H 35/07

識別記号

F I

テーマコード^{*}(参考)

B 4 3 L 19/00

H 3 F 0 6 2

B 4 3 M 11/06

B 6 5 H 35/07

E

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全 5 頁)

(21)出願番号 特願2000-328230(P2000-328230)

(22)出願日 平成12年10月27日(2000.10.27)

(71)出願人 000005957

三菱鉛筆株式会社

東京都品川区東大井5丁目23番37号

(72)発明者 磯田 隆史

神奈川県横浜市神奈川区入江2丁目5番12
号 三菱鉛筆株式会社横浜事業所内

(74)代理人 100060896

弁理士 杉山 泰三

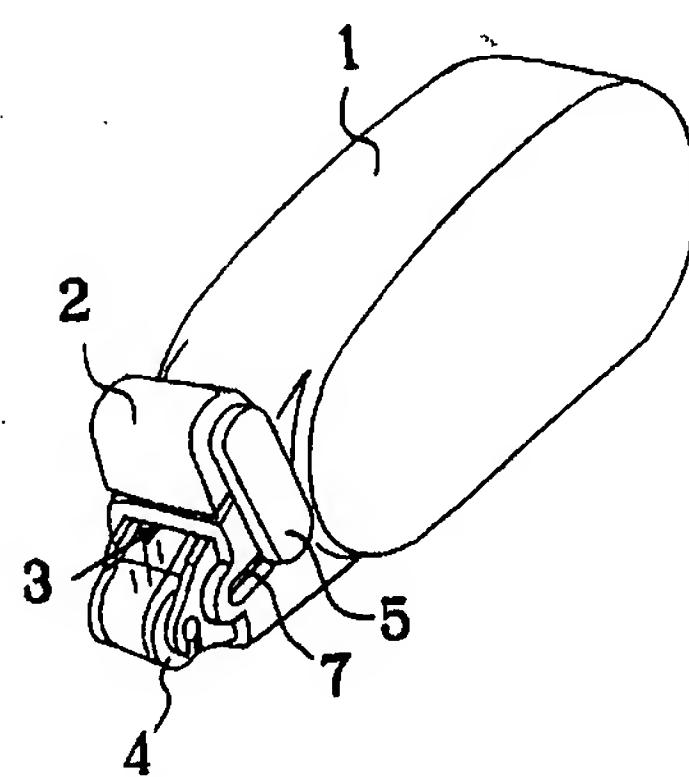
F ターム(参考) 3F062 AA05 AA15 AB05 BA04 BB08
BF03

(54)【発明の名称】 修正テープや粘着テープ等の転写具

(57)【要約】

【課題】 転写作業時にキャップが紛失するおそれがなく、かつ、転写作業を行なう場合にキャップが転写ヘッドから離れて転写作業の邪魔にならず使い勝手の良好な修正テープや粘着テープ等の転写具を提供する。

【解決手段】 前端に開口部3を設けた中空のケース本体1の内部に転写テープ10の供給リール11、使用済みテープの回収リール12、及び転写ヘッド4等から成る転写機構を収容して、その転写ヘッド4をケース本体1の前端開口部3から露出可能とした修正テープや粘着テープ等の転写具において、そのケース本体1の前端開口部3から露出した転写ヘッド4を覆うキャップ2に後方へ突出したアーム5を一体に設けるとともに、そのアーム5の後端部に回転軸部6を設け、又、ケース本体1の前端近傍の側面に前後方向に長い軸受溝7を設けて、上記のアーム5の後端部に設けた回転軸部6をその軸受溝7に前後方向へスライド自在に且つ回転自在に嵌合させたことを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 前端に開口部3を設けた中空のケース本体1の内部に転写テープ10の供給リール11、使用済みテープの回収リール12、及び転写ヘッド4等から成る転写機構を収容して、その転写ヘッド4をケース本体1の前端開口部3から露出可能とした修正テープや粘着テープ等の転写具において、そのケース本体1の前端開口部3から露出した転写ヘッド4を覆うキャップ2に後方へ突出したアーム5を一体に設けるとともに、そのアーム5の後端部に回転軸部6を設け、又、ケース本体1の前端近傍の側面に前後方向に長い軸受溝7を設けて、上記のアーム5の後端部に設けた回転軸部6をその軸受溝7に前後方向へスライド自在に且つ回転自在に嵌合させたことを特徴とする修正テープや粘着テープ等の転写具。

【請求項2】 アーム5を回転させてキャップ2を開くことにより転写ヘッド4を露出させてから、そのアーム5を後退させた位置で、互いに嵌合することにより、そのアーム5をケース本体1に対し固定する係止凸部14と係止凹部15を設けた請求項1記載の修正テープや粘着テープ等の転写具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は修正テープや粘着テープ等の転写具、すなわち、ベーステープに修正剤や粘着剤の塗膜を形成してなる転写テープを使用して、その転写テープの塗膜を紙面等に転写可能とする装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 この種的一般的な転写具は、ケース本体の内部に転写テープの供給リールと使用済みテープの回収リールを収容するとともに、ケース本体の前端に設けた開口部から外部へ露出する転写ヘッドを具えて、その転写ヘッドにより転写テープの一部を紙面等に押し付けて転写できるようにしている。そして、不使用時に、ケース本体の前端に設けた開口部から外部へ露出する転写ヘッドを保護するため、或いは埃等の付着を防止するために、キャップで転写ヘッドを覆うようにしている。

【0003】 このキャップには、ケース本体から取り外し可能な脱着式のものや、ケース本体に蝶着した回転式のものがあるが、前者は取り外したときに紛失するおそれがあり、又、後者はキャップを開口部の縁に蝶着したものが多く、回転して転写ヘッドが露出しても、その転写ヘッドの近くにキャップが位置するので、転写作業の邪魔になるという問題があった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 そこで本発明は上記の問題を解決すること、すなわち、転写作業時にキャップが紛失するおそれがなく、かつ、転写作業を行なう場合にキャップが転写ヘッドから離れて転写作業の邪魔にならぬ使い勝手の良好な修正テープや粘着テープ等転写具の提供を課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記の課題を解決するために、本発明の修正テープや粘着テープ等の転写具は、前端に開口部3を設けた中空のケース本体1の内部に転写テープ10の供給リール11、使用済みテープの回収リール12、及び転写ヘッド4等から成る転写機構を収容して、その転写ヘッド4をケース本体1の前端開口部3から露出可能とした修正テープや粘着テープ等の転写具において、そのケース本体1の前端開口部3から露出した転写ヘッド4を覆うキャップ2に後方へ突出したアーム5を一体に設けるとともに、そのアーム5の後端部に回転軸部6を設け、又、ケース本体1の前端近傍の側面に前後方向に長い軸受溝7を設けて、上記のアーム5の後端部に設けた回転軸部6をその軸受溝7に前後方向へスライド自在に且つ回転自在に嵌合させたことを特徴とする、という構成を探るものである。

【0006】 なお、キャップ2を回転させて転写ヘッド4を露出させてからアーム5を後退させた状態、すなわち、使用状態でアーム5が前方へ回転してキャップ2が転写ヘッド4に被さると、転写作業を中断しなければならないので、これを防止するために、上記の本発明の修正テープや粘着テープ等の転写具は、アーム5を回転させてキャップ2を開くことにより転写ヘッド4を露出させてから、そのアーム5を後退させた位置で、互いに嵌合することにより、そのアーム5をケース本体1に対し固定する係止凸部14と係止凹部15を設けることが好ましい。

【0007】

【発明の実施の形態】 以下、図を用いて本発明の実施の形態について説明する。まず、図1は、不使用状態、すなわち、ケース本体1の前端開口部3をキャップ2で覆った状態を示したものである。キャップ2は、図2に示すように、上方へ回転することによりケース本体1の前端開口部3を開放して転写ヘッド4を露出させるようになっている。なお、ケース本体1とキャップ2は共にプラスチックで成形することができる。

【0008】 次に、図3はケース本体1からキャップ2を取り外した分解状態を示したものである。この図3に基づきキャップ2の構造、及びケース本体1の前端部の構造を詳しく説明する。まず、キャップ2は転写ヘッド4に被せることができる中空形状になっていて、その両側の側面から後方へ突出する一対のアーム5を一体に設けている。そして、その一対のアーム5はそれぞれ後端部の内面側に対向するように回転軸部6を突設している。

【0009】 ケース本体1は前端開口部3に近い両側の側面にそれぞれ前後方向に長い軸受溝7を設けている。この軸受溝7は上記の回転軸部6を前後方向へスライド

自在に、かつ、回転自在に嵌合させるものである。また、この軸受溝7は後端近傍の縁に係止突起8を設けている。この係止突起8は、上記の回転軸部6が軸受溝7の後端まで移動したときに、その回転軸部6と係止して、その回転軸部6が前進しないように固定するものである。また、軸受溝7の上下外側で、ちょうど係止突起8と対応する位置には切込孔9を設けている。この切込孔9は、軸受溝7をスライドする回転軸部6がちょうど係止突起8を通過するときに、その係止突起8を設けた部位を外側へ弾性変形しやすくするものである。

【0010】次に、図4及び図5によって、閉じた状態のキャップ2を開くまでの手順を説明する。まず、図4の(A)に示すように、キャップ2が閉じている状態では、図5の(A)に示すように、アーム5の回転軸部6が軸受溝7の後端に位置して、係止突起8と係止することにより固定している。

【0011】次に、図4の(B)に示すように、ケース本体1に対しキャップ2とアーム5を一体的に前方へ移動させる。このとき、図5の(B)に示すように、アーム5の回転軸部6は軸受溝7を前方へスライドして軸受溝7の前端へ移動する。

【0012】次に、図4及び図5の(C)に示すように、回転軸部6を中心としてアーム5を回転させることによりキャップ2を上方へ移動させ、ケース本体1の前端開口部3を開放して転写ヘッド4を露出させる。

【0013】次に、図4の(D)に示すように、アーム5を回転してキャップ2を開いた状態のままで、そのアーム5とキャップ2を後方へ移動させる。そして、図5の(D)に示すように、回転軸部6を軸受溝7の後端までスライドさせて、係止突起8により係止する。

【0014】この状態で、転写ヘッド4を紙面等に押し付けて転写作業を行うことになる。その場合、キャップ2は転写ヘッド4から遠く離れているので邪魔になることはない。

【0015】なお、図4に示すように、ケース本体1の内部には、転写テープ10の供給リール11と使用済みテープの回収リール12を収容し、両者はベルト13やギアなどで連動して回転するようにしている。なお、この供給リール11と使用済みテープの回収リール12を転写ヘッド4とともに一つの基板に取り付けてカートリッジ化することも可能である。

【0016】転写テープ10は、プラスチックフィルム製のベーステープの片面に修正剤や粘着剤の塗膜を形成して、その塗膜を紙面等に転写可能としたものである。この転写テープ10は供給リール11から転写ヘッド4に送られて、同転写ヘッド4により紙面等に押し付けられることにより紙面等に塗膜を転写してから回収リール12に巻き取られることになる。

【0017】上記のように、キャップ2を開いてから後方へ移動させると、キャップ2が転写ヘッド4から遠く

離れて、転写作業が極めてやりやすくなる。しかしながら、キャップ2を開いてからアーム5を後方へ移動させた状態でも、アーム5が前方へ回転するとキャップ2が転写ヘッド4に被さって転写作業の邪魔になることがある。そこで、アーム5を回転させてキャップ2を開いてから後方へ移動させた状態で、そのアーム5を固定できるようにするのが好ましい。その手段として、図6に示すように、アーム5の内面に係止凸部14を設けるとともに、ケース本体1の側面にその係止凸部14と嵌脱自在な係止凹部15を設けることが好ましい。この係止凸部14と係止凹部15は、図7の(A)に示すようにキャップ2を閉じている状態から、図7の(B)に示すように回転軸部6を軸受溝7の前端へ移動させて、図7の(C)に示すようにそのアーム5を回転させてキャップ2を開いてから、図7の(D)に示すようにアーム5を後退させたときに、互いに嵌合して係止可能な位置に設けるものとする。これにより、アーム5をケース本体1に固定して、キャップ2が開いた状態を維持することができる。また、係止凸部14と係止凹部15は、転写作業が終了して、キャップ2及びアーム5を前方へ押して回転させるときに、その係止凸部14が係止凹部15から容易に脱出できるような形状とする。なお、係止凹部15をアーム5の内面に設けて、係止凸部14をケース本体1の側面に設けることも可能である。

【0018】

【発明の効果】請求項1記載の本発明の修正テープや粘着テープ等の転写具は、転写作業を行なうためにキャップ2を開いた状態で、そのキャップ2がアーム5を介してケース本体1に接続されているので紛失するおそれがない。また、キャップ2を開いた状態で、アーム5の回転軸部6を軸受溝7の後端まで移動させることにより、キャップ2を転写ヘッド4から遠くまで離すことができるので、キャップ2が転写作業の邪魔にならず使い勝手が良好である。

【0019】請求項2記載の本発明の修正テープや粘着テープ等の転写具は、キャップ2を開いてからアーム5を後退させた状態で、そのアーム5を係止凸部14と係止凹部15の嵌合により固定することができるので、アーム5が前方へ回転してキャップ2が転写ヘッド4に被されることを阻止して転写作業の中止を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】キャップが閉じている状態の斜視図である。

【図2】キャップを開いた状態の斜視図である。

【図3】キャップをケース本体から取り外した分解状態の斜視図である。

【図4】閉じた状態のキャップを開いて後方へ移動させるまでの手順を示す一部破断側面図である。

【図5】閉じた状態のキャップを開いて後方へ移動させるまでの手順を示す前端部の拡大断面図である。

【図6】キャップをケース本体から取り外した分解状態の斜視図である。

【図7】閉じた状態のキャップを開いて固定するまでの手順を示す前端部の拡大断面図である。

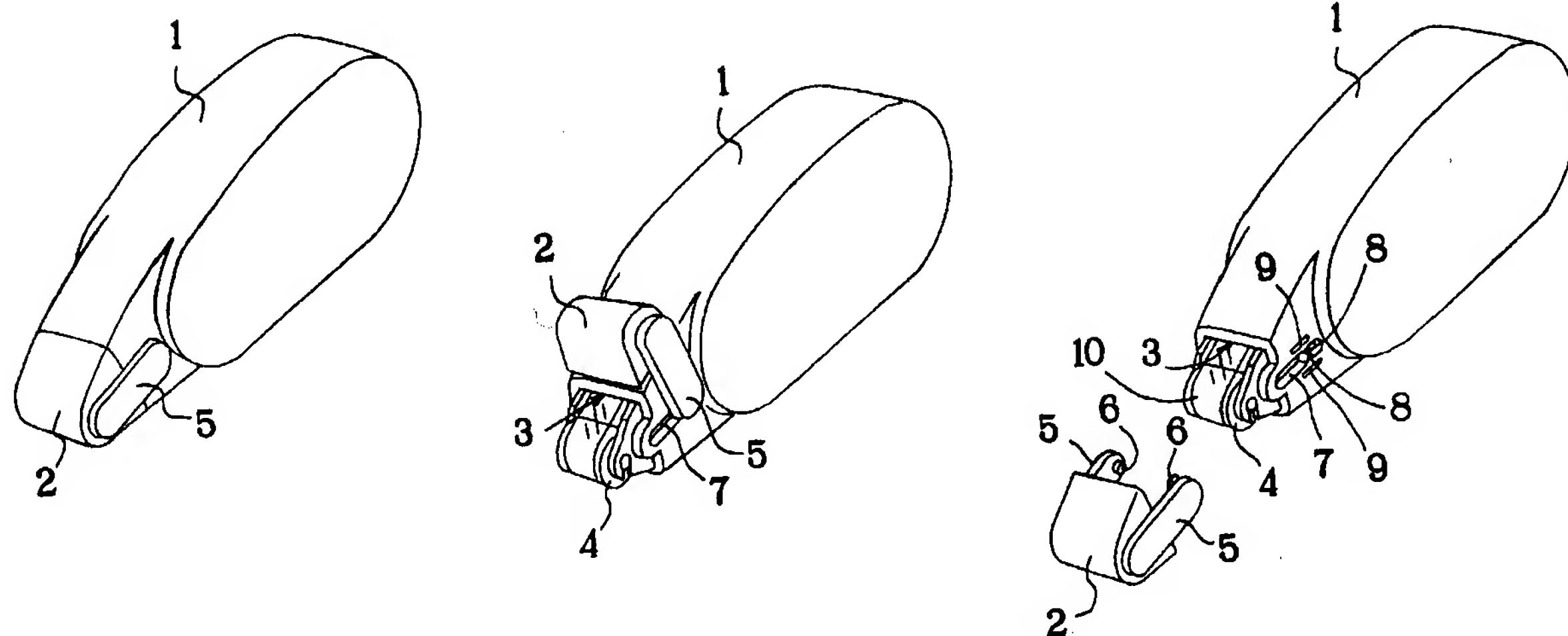
【符号の説明】

| | |
|---------|----------|
| 1 ケース本体 | 6 回転軸部 |
| 2 キャップ | 7 軸受溝 |
| 3 開口部 | 8 係止突起 |
| 4 転写ヘッド | 9 切込孔 |
| 5 アーム | 10 転写テープ |
| | 11 供給リール |
| | 12 回収リール |
| | 13 ベルト |
| | 14 係止凸部 |
| | 15 係止凹部 |

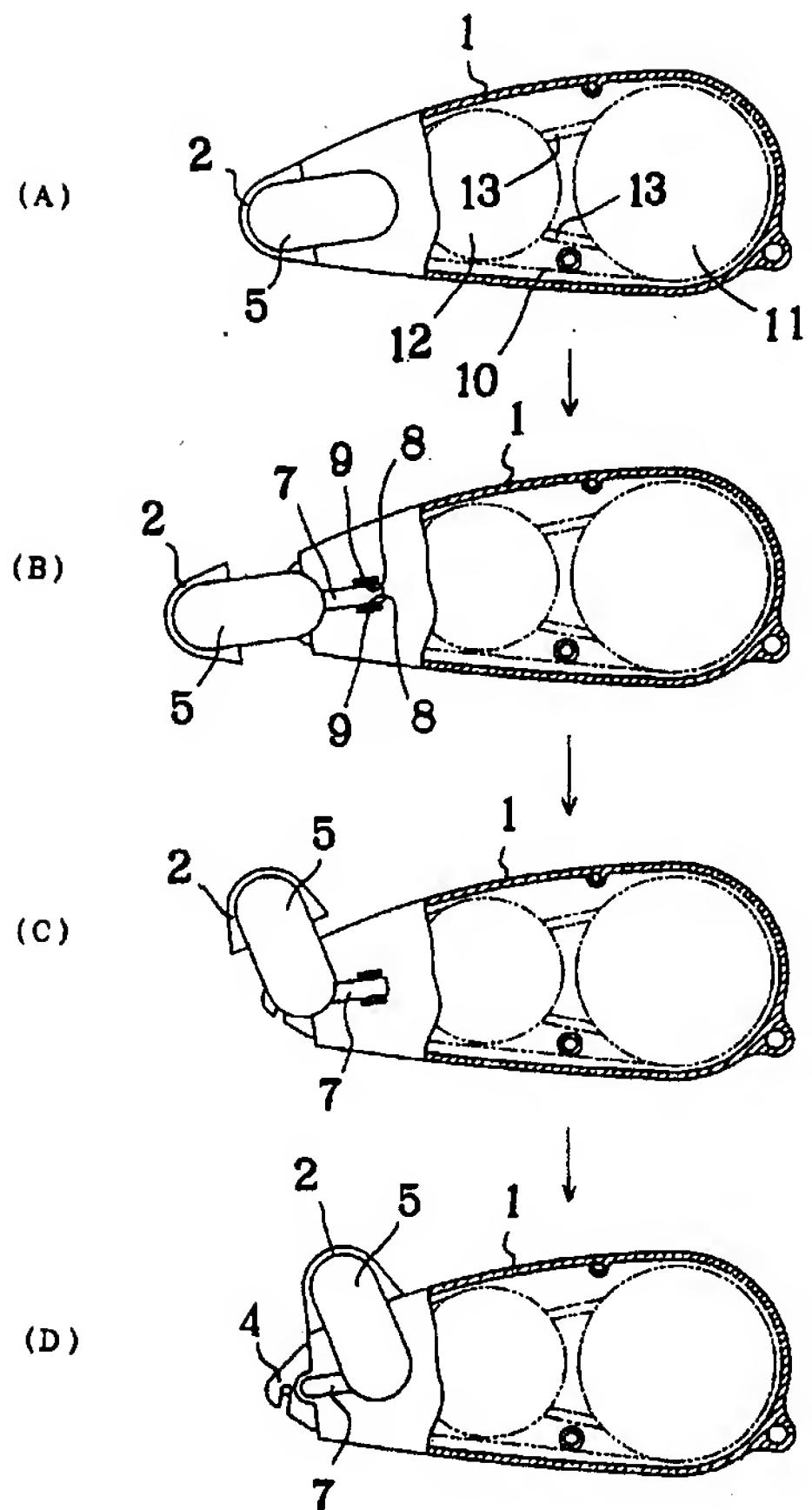
【図1】

【図2】

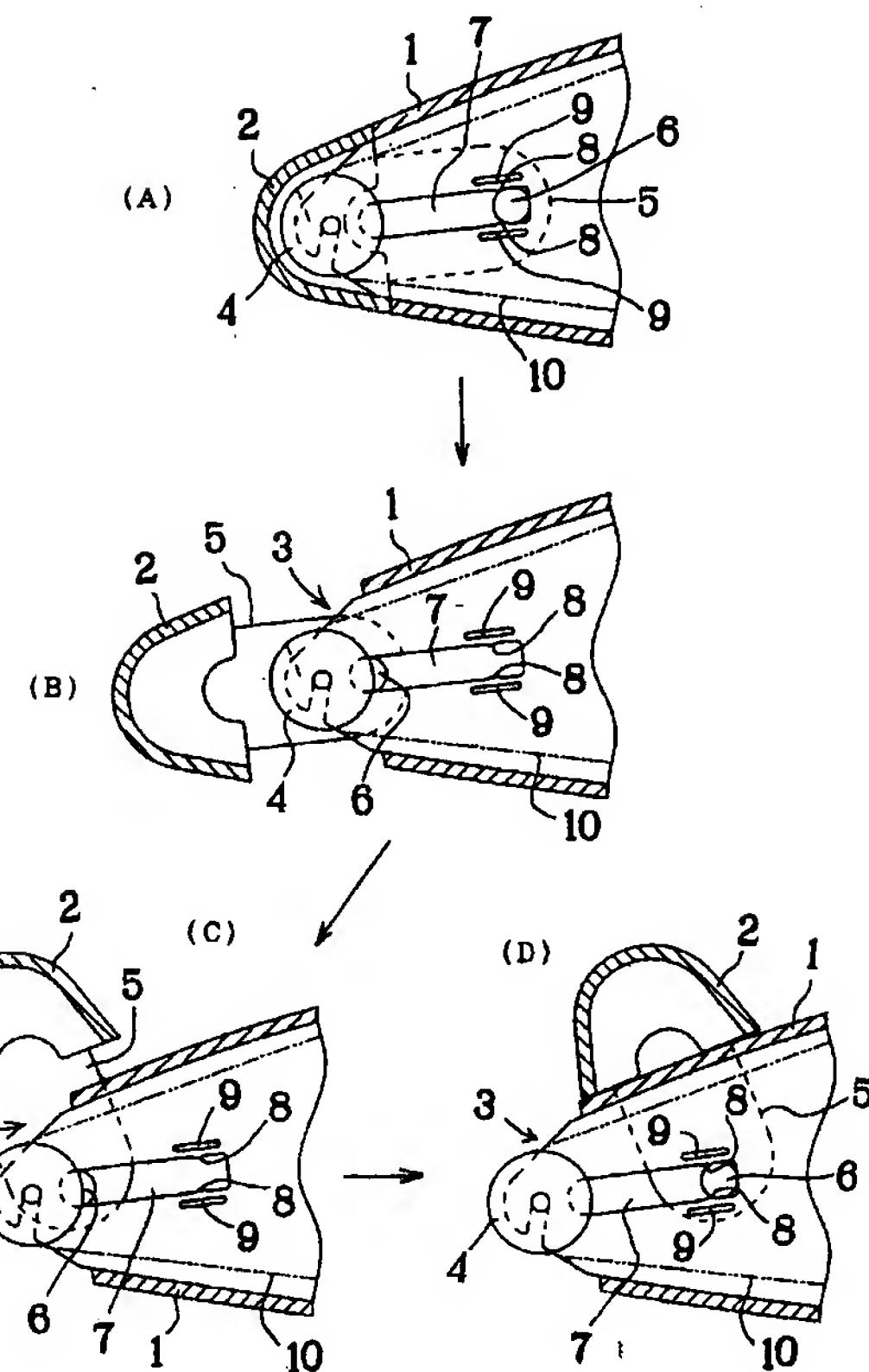
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

